



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

広島陵北ロータリークラブ

- The Weekly Report -

～クラブのテーマ～

こころゆたかなロータリアン

～本年度会長方針～

原点に還って、奉仕を実践しよう。



第1161回例会 2015年4月22日 No.1130号

■ 会長時間



会長 渡部 邦昭

こんにちは。ご機嫌いかがですか。卯月の下旬となり、暖かくなってきましたが、朝晩の寒暖の差が激しいので、体調管理には充分お気を付け下さい。今年、トマ・ピケティの「21世紀の資本」という本が話題となり、格差の問題に関心が寄せられるようになりました。自由市場を基調とする資本主義経済の下では、成功する人とそうでない人との間に格差が生まれ、富者と貧者が生まれることはやむをえないことかもしれません。ただし、社会的に許容できる範囲内に納まるのが社会の安定の為には必要であることは大多数のコンセンサスであると思います。元厚生省事務次官を勤められた岡光序治さんが、さる2月4日の例会卓話で「社会保障のゆくえ」と題してお話しをいただきました。岡光さんは、消費税だけでは社会保障費は賸りきれない、給付で抑制するか負担を増やすかのミックスしかない、といわれていました。私は、先日、日経ビジネス(2015. 3. 23)を購入しました。「2000万人の貧困」というタイトルがついていました。2000万人という数字は、日本人1億2000万人の実に6分の1です。私なりの理解では、20年以上続いたデフレが、多くの貧困層を生み出した大きな要因のひとつであると思っています。それで、安倍総理大臣がデフレからの脱却ということ掲げられているのは理にかなっていることといえます。しかし、生活保障費が4兆円に達するという数字を示されますと、早急になんとかしなくては行けないと思うのは誰でもそう思うのではないのでしょうか。本日の例会卓話は、長年に渉り、貧困問題に取り組んでこられた、尾藤廣喜様を講師にお越しいただいています。尾藤様には、レジュメと資料を用意していただいておりますので、それらを見ながら、聴講していただければと思います。なお、尾藤様は、京都弁護士会所属の弁護士さんでありまして、私が40年ほど前に京都で司法修習生をしておりました頃からの知り合いであります。ロータリーの友委員会の橋本長平委員長も京都弁護士会所属の弁護士でありまして、よく承知している仲であります。それでは宜しく願いいたします。

今回の例会(5月13日)

会員卓話
永岡 満 会員

次回の例会(5月20日)

来賓卓話
新広島ヤクルト販売(株) 広島本社宅配営業部 課長
原田 史子 様

出席報告 (例会運営委員会)

4月22日(水)出席者	
会員総数	56名
出席会員	42名
欠席会員	14名
ご来賓	1名
ご来客	3名
ゲスト	0名

来客者紹介 (親睦家族委員会)

4月22日(水)出席者	
広島RC	1名
広島東南RC	1名
西条RC	1名

幹事報告(賀谷幹事)

■ 例会変更

- ・ 広島廿日市RC「創立20周年記念式典並びに祝賀会」
【とき】 5月15日(金) 18:00～ [※5/18(月)の変更]
【ところ】 ホテルグランヴィア広島4階「悠久の間」

■ 休会のお知らせ

- ・ 5月7日(木) 広島北RC
- ・ 5月8日(金) 広島城南RC

■ お知らせ

- ・ 5月13日(水)の例会ですが、13:40～理事役員会がごさいますので、お間違えのないようお願い致します。

【例会】 毎週水曜日(12:30～13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】渡部 邦昭 【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F 【TEL】082-221-4894
【幹事】賀谷 俊幸 【ホームページ】http://www.ryohoku-rc.jp/ 【FAX】082-221-4870

来賓卓話(1/2)

貧困問題とその取り組み

日本弁護士連合会貧困対策本部副本部長
生活保護問題対策全国会議代表幹事
弁護士 尾藤 廣喜 様

1. 私はなぜ貧困問題に取り組んでいるか

私は、1970年(昭和45年)に厚生省(現厚生労働省)に入省し、その後、保険局企画課で医療保険を、また、社会局保護課で生活保護を担当し、生活保護の重要性と制度としての魅力に強く心打たれました。医療保険が、政党の駆け引きで内容が決定される(上からの制度改革)のに対し、生活保護は、現場の矛盾や課題が制度を動かし、市民の生活を底支えしていた(下からの制度改革)からです。私は、故あって厚生省を退職しましたが、その後も生活保護制度、さらには、「貧困」の問題にずっとかかわってることになったのです。いわば、公務員時代の人間としての「感動」「やりがい」が今日まで続いていることとなります。



2. 本における「貧困」の実情

今、生活保護制度利用者は、増え続けています。1995年(平成7年)に88万2229人であったものが、2011年(平成23年)7月には、205万0495人と現行の制度発足以来最多数となりました。その後、2014年(平成26年)2月には、216万6381人、159万8818世帯が利用し、保護の利用率は1.70%となっています。

その背景には、日本で「貧困」が深刻化していることがあげられます。「餓死」「孤立死」が年間50人から100人もあり、1世帯当たり平均所得金額が、1995年(平成7年)から2010年(平成22年)の15年間で660万円から538万円にまで低下し、貯蓄なし世帯が、1987年(昭和62年)の3.3%から、2010年(平成22年)には28.6%と大幅に増えています。また、貧困率の推移を見ても、2006年(平成18年)には15.7%だったものが、2009年(平成21年)にはさらに16%と悪化しています。子どもの貧困率も2009年(平成21年)に15.7%となり、OECD中で9番目の高さです。

3. 貧困化が進む背景には何があるか

このように日本で貧困化が進んだ原因には、まず、労働の現場で、パート、派遣、さらには有期雇用などの非正規労働者と呼ばれる労働者の割合が、1987年(昭和59年)2月の17.6%から2012年(平成24年)3月には35.1%と大きく増加したこと、特に、若者では、2013年(平成25年)に50%を超えた人が非正規労働者となっていることがあげられます。そして、生活保護世帯世帯数と構成割合の推移を見ても、50歳代の増加が目立つこと、また、それ以上に70歳以上、69歳から70歳の高齢世帯の増加が目立つことがあげられます。

4. 貧困を克服するために本来どのような対策が必要なのか

貧困克服のためには、貧困を生み出す原因にあわせた対策が必要です。具体的には、①労働の現場では、非正規雇用の規制や最低賃金のアップ等による雇用の安定(まともな仕事があり、仕事に就けば何とか生活できる賃金が得られる)対策、②社会保険、とりわけ完全失業者のうち2割程度しかカバーしていない雇用保険の失業給付の充実、医療保険の給付内容の充実③無年金、低年金高齢者(月額5万円未満の年金受給者約1000万人)対策としての最低保障年金の創設④先進諸国並みに低所得者向けの家賃補助(住宅手当)制度を創設すること⑤高すぎる教育費と給付制の奨学金の充実などが必要です。

5. 現実に散られている施策は

ところが、現実に政府が行っていることは、①生活扶助基準の大幅な引き下げ、②社会保障制度の大幅な後退(年金の減額、医療保険の自己負担の引き上げ、介護保険の保険料の引き上げと介護度の軽い人の保険給付対象からの除外、障がい認定の一層の厳格化)など反対の方針ばかりです。ここで、さらなる消費増税を行えば、国内需要は増加せず、景気自体も浮揚しません。

来賓卓話(2/2)

6. 財源をどうするか

生活保護の費用を対GDP比で国別比較すると、イギリス5.0%、フランス4.1%、ドイツ3.3%に比べて日本は0.6%とそれほど大きな割合ではありません。また、社会保障支出の対GNP比では、イギリス約20%、フランス約31%、ドイツ約27%に比べて日本は約18%とこれもそれほど大きな割合ではありません。

日本では、業績の良い大企業の「実効税負担率」のワースト3が0.001%、0.003%、0.097%であるなど、中小企業よりも資本金5億円を超える大企業の税負担が少なく、さらに大金持ちの所得税が大幅に減税されるなど不公平税制が目立ちます。また、この間の消費税税収282兆円に対して法人税減税額が255兆円であるなど、巨額な消費税収入は、法人税減税に消えています。

7. 最後に

社会保障を充実し、不公平税制の是正を行わないと、「分かち合い、支え合う」社会にはならず、「暴走する資本主義」が正常な市民社会全体を滅ぼすことになりかねません。

※【別紙】卓話レジュメ(全5ページ)

広島北ロータリークラブ46周年記念例会・懇親会(1/2)

<渡部会長 報告>

去る4月24日(金)午後6時からホテルグランヴィア4階にて開催されました、広島北ロータリークラブ46周年記念例会・懇親会に、賀谷俊幸幹事とともに来賓出席してまいりました。広島北ロータリークラブは、会員数85名ということで、24周年を迎えました私どものクラブ会員55名と同様な歩みを続けているように感じました。私どものクラブとしても、46周年に向けて、会員増強を図っていかねばならない、と強く感じました。それと、上記記念例会・懇親会の中で、一年間の活動報告が担当責任者からスライドで紹介しながらの説明報告がありました。社会奉仕活動、例会卓話、国際奉仕活動などの報告がありましたが、幅広く奉仕活動をされているので、感心するとともに、当クラブとしても参考にしてよいのでは、と思いました。なお、参考までに、私がおこなった来賓挨拶の要旨を下記に掲載させていただきます。

記

2015年4月24日

来賓挨拶

広島北ロータリークラブ
会長 渡部 邦昭

広島北ロータリークラブの創立46周年、まことにお目出とうございます。

広島北ロータリークラブは、24年前に、広島北ロータリークラブをスポンサークラブとして誕生したクラブです。誕生以来、広島北ロータリークラブの奉仕活動を模範として歩んできたわけですが、我が広島北ロータリークラブも、24年という歴史を刻んでまいりました。25周年度を前にして、基本に戻ろう、ということで、「原点に還って、奉仕を実践しよう」という会長方針を掲げております。

当クラブは、平成2年9月12日に創立総会をしておりますが、初代会長の二宮義人先生はクラブテーマを「心ゆたかなロータリアン」と定めたことについて、「心ゆたかにということは、相手の立場、相手の人格を思いやり、理解し尊重するということであり、そのために、心ゆたかなロータリアンとして、長い伝統ある、かつ権威ある精神を受け継ぎたいと思っております。」と述べられています。

また、創立総会のとき来賓で挨拶された松井五郎ガバナー(当時)は、「ロータリーの精神は資本主義の潤滑油である」ということを機会ある毎に話されていました。

広島北ロータリークラブ46周年記念例会・懇親会(2/2)

私たちは資本主義の中で生きています。資本主義というのは「むきだしの資本主義」とか、強欲の資本主義、あるいは、修正資本主義とかいわれますが、本来人間の欲望に限度がなく、資本主義は暴走する宿命のようなものを背負っていますので、ブレーキとなるものが必要なわけです。

松井五郎ガバナーが説かれた「ロータリーの精神は資本主義の潤滑油である」というのは、アダム・スミスの道徳感情論とつながっていると思います。

禁欲とは強欲の表裏ですが、二宮義人初代会長が言われたように「こころゆたかなロータリアン」が増加して、「共感の輪」が広がれば経済における資本主義と政治におけるデモクラシー(民主主義)とが両輪となって、世界の指導原理として永続することになるのではないのでしょうか。逆に「共感の輪」が廃れ、ロータリーが危機に陥れば、それは資本主義とデモクラシーの危機でもあります。

ロータリーの奉仕の精神とは、一つは、他人の立場に立って物を考えること、第二に、お互い弱い立場を持っているから、お互いに助け合ってゆこうじゃないかということ、であり、各人の職業を通じて正しく機能していければ、デモクラシーの社会がうまくいくのではないかということではないかと思います。

(ロータリークラブの誕生と時代的背景について改めて考えてみる必要があると思います。)

ポール・ハリスは1905年2月23日に世界最初のロータリークラブをシカゴ市に創設しています。その時のアメリカは社会変動期で、資本主義の暴走によって、利己主義、悪徳商法など「身勝手な自由」が横行していました。荒廃した社会の中で、人間の絆を回復することが大切であることを悟り、一業種一人の相互扶助のクラブ構想が芽生えたとされています。ロータリーの理念(超我の奉仕)とは、「奉仕第一、自己第二」奉仕の中にこそ、幸福は存在する(ポール・ハリス)ということを実践することでもあります。

当クラブも24年の歩みの中で会員の新陳代謝がすすみました。そういう意味で、足元を見つめ直しながら、ロータリーの精神を継承することが大切になってきています。広島北ロータリークラブの皆さんには今後とも引き続き、広島北ロータリークラブを大所高所からご指導いただくようよろしくお願い申し上げます。改めまして、本日の広島北ロータリークラブ創立46周年、まことにお目出度うございます。以上、来賓挨拶とさせていただきます。

以上



..... SMILE BOX

渡部邦昭 会員

尾藤先生、遠路卓話にお越しいただき、ありがとうございます。本日の卓話宜しく願い致します。

大場常幸 会員

入院に際し、お見舞いをいただき、ありがとうございました。

山田和弘 会員

4月1日より、長男が広島に戻ってくれて一緒に仕事をしています。いろいろ感心するところがあり、頼もしく思っています。

当日計	5,000円	累計	1,025,000円
-----	--------	----	------------